

「第2次今金町まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

今金町役場まちづくり推進課

1 はじめに

本町は、渡島半島北部の檜山管内にあり、北緯42° 25′、東経140° 1′に位置する。その範囲は東西27.5km、南北35.3km、総面積は568.1km²であり、町の周囲は東西南北をそれぞれ長万部町、せたな町、八雲町、島牧村に接している。総面積は568km²であるが、山林が443km²と全体の78%を占めており、耕地面積は52km²で総面積の9%に過ぎない。地勢は、メップ岳（1,147m）やカニカン岳（981m）等の山地から連なる単調な丘陵地帯と、平坦な利別平野からなり、町のほぼ中央を一級河川後志利別川が約80kmにわたって貫流して日本海に注ぎ、周辺の山地を源とする中小河川がこれに合流している。

2 策定の背景及び趣旨

今金町は、2014年12月27日付け閣副第979号内閣審議官通知により、本町の人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを策定し、これを踏まえて、第1次今金町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめ推進を図ってまいりました。

総合戦略策定の目的は、国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則等を基に、本町における人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指す



旧国鉄今金駅跡地に町のシンボルとして建設したデ・モーレン（デ・モーレンとはオランダ語で「風車」を意味します）

すことにあり、第1次総合戦略の計画期間は2015年から5か年までであり、この間、基本目標の実現に向け、施策を展開してきましたが、計画期間が2019年で最終年度を迎えたことから、施策展開によるKPI評価、事業成果、課題等を踏まえ、第2次今金町まち・ひと・しごと総合戦略を策定しました。

3 総合戦略策定の位置づけと対象期間

第2次総合戦略は、第5次・第6次今金町総合計画の重点戦略に基づき、人口減少や少子化対策に対して、より効果的と考えられる施策を整理し定めるものです。

また、別途改訂する人口ビジョンにおいて示す、本町における人口の現状や課題及び目指すべき将来の方向性を踏まえ、さらに国や北海道の総合戦略を勧案し、策定するものとします。

また、対象期間は令和2（2020）年度から令和6（2024）年度までの5年間としています。

4 将来の人口目標

本町においては、自然増減より社会増減の方が人口に与える影響度が高くなっており、出生率の上昇や子育て支援策など自然増につながる施策に合わせ、転出抑制、転入促進などの社会増対策に取り組むことが特に重要と考えており、本町の令和2（2020）年国勢調査による総人口は5,072人ですが、将来における目標総人口を令和42（2060）年の総人口3,600人維持を目指し、今後の人口減少対策を推進しております。

5 第2次今金町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標

本町は、これまで、農業を基幹産業としてまちづくりを進めてきました。近年では障がい者雇用・高齢者

のケアをはじめ福祉関連施策に手厚い支援をしてきており、加えて福祉関連の従事者が多くいるように、本町人口の大きな幹になっていることに示される福祉の町でもあります。

これまで福祉施策、産業施策を押し進めてきたまちづくりの成果を踏まえるとともに、町の人口の現状と課題を踏まえて、人口減少に歯止めをかけるためのバランスのとれた人口構造の確立を目指すことを目標とし、第1次今金町まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定したコンセプトを継続して更なる推進を図ります。

また、施策の推進にあたっては、本町における、人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指すこととするため4つの基本目標をもとに施策展開を進めていくこととしています。

「基本目標1 今金町における安定した雇用を創出する」

人口減少対策においては、地域の活力と持続可能性の基礎となる産業と雇用の創出は必要不可欠なものです。

本町の基幹産業である農業における「今金型地域複合経営」の促進、福祉分野での雇用の創出を図るとともに、民間での受け皿づくりにより女性、高齢者、障がい者の就業機会の拡大を目指します。

具体的な施策

- ① 町内にある道立特別支援学校の卒業生に対する就職相談や雇用主に対する相談・支援を進め、学校生活から社会生活へのスムーズな移行を図り、雇用と定住促進を進めます。
- ② 新たな産業の調査研究を進めるとともに、6次化（特産品を活用した）商品の開発の調査の支援に取り組めます。



後志利別川（昭和62年から全国の一級河川で毎年行っている水質調査で過去十数回にわたり「日本一のきれいな川」となっている）

- ③ 多様な担い手の確保や育成を図りながら、新規就農者の受け入れ条件を明確化し、長期的な農業経営が可能な人材を確保する。林業については、高性能林業機械導入等による、森林整備事業量増加に伴い、林業従事者の新規雇用を促進する。
- ④ 経営の担い手育成・新規参入者の発掘など地域産業の課題解決に努めます。また、農業経営の収益と効率化の改善を支援します。
- ⑤ 農地、農業用水路等の保全・管理のための共同活動の取り組みや、中山間地域等における農業生産活動を継続するための取り組みなど、農業の有する多面的機能の向上を図ります。
- ⑥ 求人情報を収集することに加え、地方定住のメリットを生かした町ホームページ・回覧等による広報活動を行い、町内事業所の長期的な人材育成を効果的・効率的に支援します。
- ⑦ 町内の農林商工業者の子弟が新たに町内で後継者として従事した場合に育成奨励を実施し、若者の雇用、定住促進につなげます。
- ⑧ 企業規模や創業段階に応じた段階的な助成など企業ニーズに応じたインセンティブの充実を図ります。また、地域の安全性をアピールした企業及び個人起業家の誘致に努めます。
- ⑨ 将来の本町の産業を担う起業者を対象とし、空き家・空き店舗の貸出しの支援、小規模テナント等による事業開業の支援を行います。
- ⑩ 幅広い課題に対応する相談機能の仕組みづくりや様々な分野で支援・協働する人材のネットワーク構築の推進に努めます。

「基本目標2 今金町に新しいひとの流れをつくる」

本町には美しい山林、一級河川後志利別川の豊かな水、肥沃な農地といったまちの財産があります。観光だけでなく、様々な農林業体験イベントの開催や交流も含めた誘客を図ることで、経済効果の創出と地域の活性化を目指すとともに、優れた自然環境と共生する持続可能なまちとして、定住の地として選ばれるよう移住・定住の促進策などを推進していきます。

また、ふるさと応援大使やさっぽろ今金会等の今金町出身者やゆかりのある方々との連携を図り、町のPR活動を通して新たな交流人口、関係人口の増加を推進します。

具体的な施策

- ① 地域独自の個性を生かした町の物産販売等の拠点施設の充実を図ります。
- ② 地域資源の価値を再発見し、磨き上げ、発信することによって、地域の活力を生み出し、町民の地域に対する誇りを醸成するとともに、町内外へ本町の魅力を浸透させ、本町の認知度向上やイメージアップを図るため観光特産品の販売の拡大など、観光の活性化を通じた交流人口の増加を図ります。特にGI（日本地理的表示）を取得した「今金男しゃく」のブランド力を活かした新たなPR等を支援します。
- ③ 町には多くの魅力があるにも関わらず、知名度の低さから人口流出が課題となっていることから、良質な雇用の充実、歴史的景観、自然環境の豊かさなど、魅力をPRし、知名度を高めることにより、移住促進を推進します。ちょっと暮らし事業等の更なる充実を図ります。
- ④ 本町に移住・定住するためのきっかけづくりに取り組み、移住・定住を支援する体制を構築します。
- ⑤ スポーツイベントを通じた町内経済の好循環を第一に、地域内、他地域の人々との交流を活発化し、年間を通じ賑わいや活性化が図られるまちづくりを目指します。
- ⑥ 地域おこし協力隊の積極的な活用及び任期後に本町に定住できるよう就業の支援を行います。
- ⑦ 北翔大学や札幌国際大学等の連携事業活動の充実をはじめ、福祉や農業関連の研究活動生等の受け入れを進めます。
- ⑧ 新たな出会いや活躍の場、魅力や価値を感じることができる場として、中心市街地の機能向上を図ります。
- ⑨ 今金町ふるさと応援大使やさっぽろ今金会等、今金出身者やゆかりのある方々と更なる連携を図り、町のPR等を通して、新たな関係人口、交流人口の

増加を図ります。

「基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

本町は国保病院、介護老人保健施設、認定こども園いまかね等医療・福祉・教育サービス機能が保たれています。今後は、救急医療・かかりつけ医療の確保、乳幼児などへの福祉サービスの提供体制の確保、幼児・初等・中等教育の確保を図り、子どもたちが健やかに成長できる地域を目指します。また、子育てをする家庭が仕事との両立を図ることができるよう、子育ての本来的な役割は家庭にあることを基本としながらも、地域が子どもを見守り、出産や育児にかかる家庭の負担を軽減し、若い世代が結婚から出産、子育てに希望を持てる地域の実現を目指します。

また、子どもの時から「働くこと」や「ふるさと」に興味、関心を持つことや、地域の一員としての自覚を促す教育を推進するとともに、今金町を支える産業や福祉、地域づくりの核となるリーダーの系統的な育成に努めます。

具体的な施策

- ① 若い世代の結婚の願いをかなえるための出会いの場の提供及びそのための社会気運を醸成します。また、産業後継者の花嫁不足解消等を図るため、婚活交流事業の取り組みに対する助成、結婚支援を推進します。
- ② 子育て相談の窓口を充実させ、子育て中の親の交流を活発化させるとともに地域等で子育てを支援する人への研修会を開催します。また、妊婦検診の助成と医療費・保育料等の支援及び不妊治療への負担軽減についての検証を行い、制度の充実を図ります。
- ③ 幼児教育・保育の充実を図るため、心身発達の心配や遅れのある乳幼児に対して、集団保育・個別保育を実施し、心身の機能の伸長と健全な社会性の成長発達を促進します。
- ④ 本町に住所を有する者が出産した時に記念品を贈呈し、出産奨励による人口の増加を図り、子どもの健全育成を図ります。

- ⑤ 小規模特認校制度による特徴ある教育活動を推進します。また、小学校と中学校が緊密に連携・協働して進め、教育指導体制、家庭・地域の教育力向上など教育環境の充実に努めます。
- ⑥ 男女がともに助け合い、互いの能力や個性を認め合うことで、仕事・生活の分野でいきいきと活動できる社会を目指します。
- ⑤ 新たな地域公共交通としてデマンド（予約制）バスを導入し、交通不便地域の解消を図り、日常生活に必要な地域住民の移動手段を確保し、外出支援、利便性の向上を図ります。
- ⑥ 共通の課題をもつ自治体間での連携協力により、広域ネットワークを形成し、人と経済・文化の交流による相互の発展、産業・地域活性化など、活力あふれる町を目指します。また、観光PR事業についても連携を強化し積極的に実施します。

「基本目標4 地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」

本町は、交通事故、犯罪の発生や自然災害も少なく安全な環境のもと安心して住まえる地域です。また、協力意識と行動力のある人が数多く活躍して、まちづくりが保たれているまちです。今後は、救急時医療、福祉サービスの提供体制の確保、日常的な買い物機能の確保、生きがいづくりへの取り組みを推進することで、そこに住み続けたいと思える生活・定住の環境づくりを進めていきます。

具体的な施策

- ① カブトムシやクワガタなど、自然などを利用した町の魅力の向上を図り、総合公園やピリカダム周辺の地域資源を活用したPRを行います。
- ② 新幹線延伸に向け、町の魅力発信と近隣町との連携態勢の整備を進めます。
- ③ 地域の魅力を高め本町の若者定住を促進することを目的として、若者を対象とした賑わいづくりを目指す事業展開に支援を行います。
- ④ 高齢者・障がい者の外出を支援し、社会的、文化的活動などの社会参加の促進を図るとともに、健康の保持及び生活の向上を図ります。



樹齢千年以上とも言われているイチイ（別名オンコ）の大木で、開拓記念樹として大切にされ、マチの木に指定されている

- ⑦ 町民が地域の中で安心して暮らすことができるよう、自治会・町内会活動の活発化を促し、災害に強いまちづくりを推進するとともに、防災意識の高揚を図ります。特に防災行政無線を活用した情報提供の充実に努めます。
- ⑧ 地域の課題解決に向けた活動に対し支援し、地域活動への参加を促進します。また、幅広い町民の声を収集し多様な声を活かした地域活動を支援します。
- ⑨ 道路・橋りょうなど町のインフラの老朽化に伴い、低コストで安全性を確保できるよう、長期的視点に立った計画的・体系的な点検及び補修を実施します。
- ⑩ 救急・災害時の緊急時の広域的な医療体協体制を整えるとともに、地域に密着した包括的な保健医療充実にに向けた取り組みを進めます。特に、救急搬送やドクターヘリの迅速な対応強化を図ります。また、国民健康保険等の保険事業の適正かつ安定のため関係機関と連携を図ります。

上記4つの基本目標・具体的な施策を設定し、達成に向けて取り組んでいます。

6 おわりに

戦略の基本コンセプトとして、「本町の魅力を活かし、安心して働き、子育てができ、住み続けられる町の実現のため、『福祉と地域産業』を調和させる仕組みの構築など人口減少対策に直結するアイデアを絞り込んで重点施策を進めていく」こととし、今金町における地方創生の実現を目指していきます。